
異世界に舞う死神

都こんぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界に舞う死神

【Nコード】

N9124X

【作者名】

都こんぶ

【あらすじ】

黒崎一護と井上織姫の息子が様々な世界で成長していくお話です。

現在は魂協会編、後にゼロ魔編やネギ魔編などを予定しています。

其の者の名 黒崎一姫（前書き）

作者は初心者です。

読みぐるしいとは思いますがご容赦を。

其の者の名 黒崎一姫

「待ちやがれー！一姫いっき〜！」

赤い髪を後ろで結わえ、刀を腰にさした刺青いれずみの男が少年に向かって叫んだ。

さらさらとしたオレンジ色の髪、茶色の目そして左目には眼帯をつけている7、8歳ほどの少年だ。

幼い少年を刺青男が追い回す様は不安をかきたてずにはいられないがよくよく見ると男の顔には刺青以外にも模様が存在した。

目をパンダのように縁どる黒い円、鼻の下から左右にのびるりっぱなヒゲ模様。

「いたずら書きされました」とその顔は如実じよじつに物語っていた。

「ハア、ハア、ま、待ちやがれ・・・」

再度男が叫ぶも少年に止まる様子はない。

ケラケラと笑うと次の瞬間、少年の姿は掻き消えていた。

だれもいなくなった道で男は脱力したように大の字に寝ころび息をみだしながらつぶやいた。

「くそつ、一姫の野郎。無駄に腕を上げやがって・・・」

汗だくになり心底疲れたように寝ころぶその男には見かけの凶悪さが気にならなくなるほど哀れに見えたという。

「ただいまー！」

元気よく叫んだのは先ほどの少年だ、汗どころか息一つみだしてない。

「ああ、お帰り」

返事をしたのは黒髪の少女だ。

先ほどの刺青男と同様、腰に刀をさしている。

今二人がいるのは巨大な屋敷だ。

手入れの行き届いた庭、大きな鯉が悠々と泳ぐ池、ときおりカコーンとすんだ音を響かせるししおどし。

一目見て金持ちの屋敷とわかる。

「一姫、やけに楽しそうだな。何事かあったのか」

少女はいつにもまして楽しそうな雰囲気を漂わせている少年に尋ねる。

「それがね」

少年がそれにこたえようとしたその時

ボタン！

ふすまが乱暴に開かれ、先ほどの刺青男が現れた

「一姫！てめえ、やっぱりここにいやがったか！」

どうやら怒りはおさまっていないようだ。

「どうしたのだ恋次、すこしおちつけ」

少女は興奮する男をいさめようと男の顔をみると

ふきだした。

「くあーはははは、恋次どうしたのだその顔は」

「うるせえ！こいつにやられたにきまつてるだろうが！」

怒りと羞恥しゅちに顔を赤くして男は吠える。

しかし、いくら強面といっても顔にらくがきされた状態でいくら吠えようがまぬけにしかみえない。

「恋次が仕事中に大口空けて寝てるのが悪いんだろ」

少年はまったく悪びれずにすました顔で火に油を注ぐ

「だからってこれはねーだろ！」

男の顔の落書きに使われた墨は特殊なものでいくら洗おうが3日は絶対に落ちないという代物だ。

つまりこれから3日間、男はこの顔のまま過ごさなければならないのだ。

それに対して少年は私もつらいのだ、という悲しげな顔をして語りだす。

「人は間違いをおかしたとき、それに準ずる罰を受けなければそこからなにも学ばない。わたしも君にこのようなことをするのは本当はいやなんだ。けれどこうすればきみが仕事中に寝こけることもなくなるだろう。君のためを思ってたことなんだ……。わかってくれ。」

ここだけ聞けばもつともなセリフに聞こえるかもしれないが少年が楽しんでいたのはだれがみても明らかだ。

当然、男の怒りが治まることはなく

「んなわけねーだろ！てめえ、さんざん笑っていやがったじゃねーか！だいたいおれは人じゃねえ。死神だ！」

そつ、今吠えている男も笑い転げている少女も少年もみな死神である。

ここでいう死神とは鎌を持ち人の命を奪っていく黒マントの骸骨がいこつではない。

死覇装しはくしょうと呼ばれる黒い着物に斬魄刀ざんぱくとうと呼ばれる刀を帯刀しており。

霊界・尸魂界内にある護廷十三隊という組織に所属している。
ソウル・ソサエティ

迷いし霊・整を、尸魂界に送ったり、現世を荒らす悪霊・虚ホロウから現世を護り、尸魂界と現世にある魂魄の量を均等に保つことが役目の調整者である。

「まあ、それは置いといてー」

「置いとくな!」

先程とは打って変わったにこやかな表情で少年がちゃかすとすかさず男はつつこんだ。

「実はね」

男のつつこみをスルーすると少年は続けた。

「珍しい虚が見つかったから隊長が実験するんだって!だから今日から12番隊に暫く泊まり込むね。あつ、それとも2人とも来る?」

「い、いや。わたしは遠慮しておこう」

「お、俺も仕事があるからな。一人で行ってこい。」

青ざめながら二人は即答した。

「そう。楽しいのになー。じゃ行ってくるね」

「お、おう」

「うむ、行ってこい」

行ってきたーす！と元気に言った次の瞬間少年の姿はきえていた。

「もう、6年になるのか」

「ああ？なにがだよ」

少年がいなくなった屋敷で少女がつぶやく

「一姫がここにきてからだ」

「そついや、もうそんなになるのか。はえーもんだな」

「ああ、はやいものだな」

二人はそろって少年の消えたいったほうをみつめていた。

かつて供に戦った仲間たちの息子を。

「そついえば恋次よ、その落書きどうやって落とすきだ？」

「あ———！！」

其の者の名 黒崎一姫（後書き）

次回は一姫の誕生話です。

また、おかしい点などございましたら教えていただけると助かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9124x/>

異世界に舞う死神

2011年10月25日12時06分発行